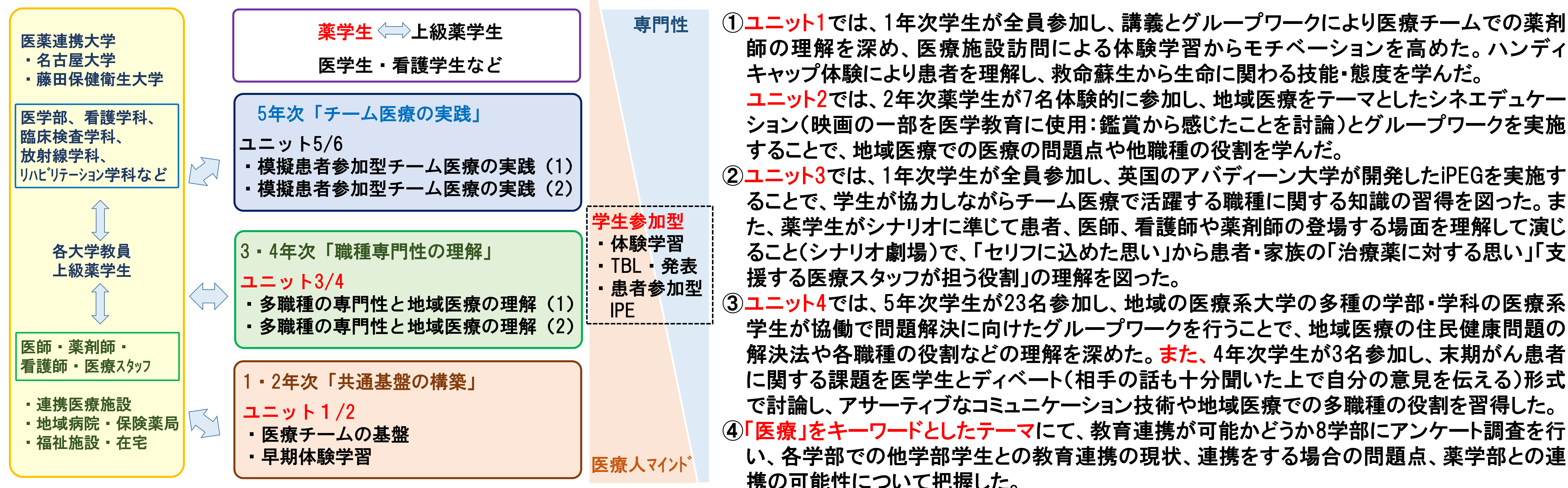


チーム医療の有用性を段階的に実感する他施設協働参加型学習

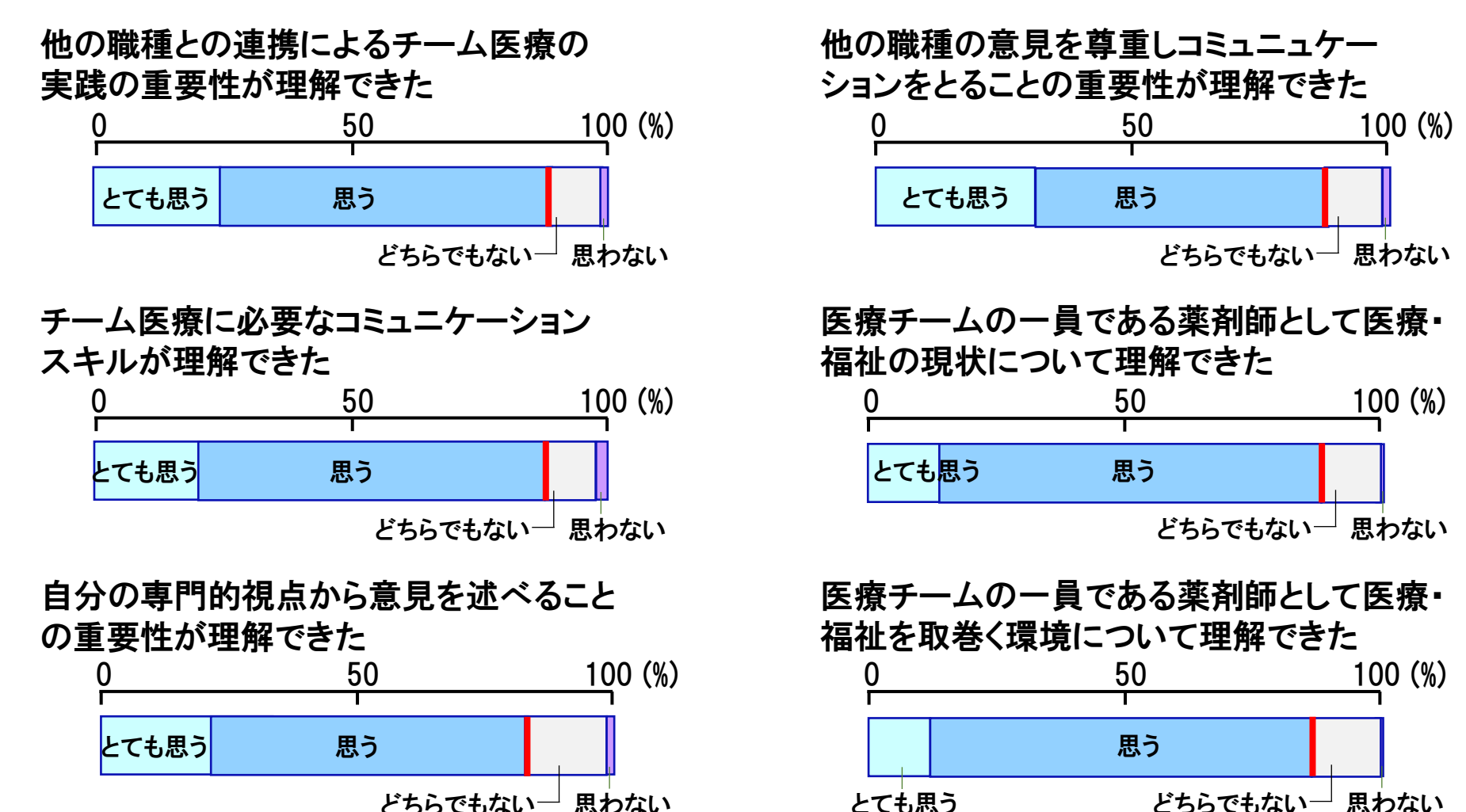
取組責任者:野田幸裕、取組者:半谷眞七子、亀井浩行、吉見 陽、福井愛子、田口忠緒

取組学部:薬学部

本取組ではチーム医療で活躍できる薬剤師の育成を目指し、学部学生時から体系的かつ、段階的に目標を設定して、薬学生が多職種の学生と共に「多職種の役割を理解する」、「知識や情報共有の重要性を学ぶ」など、チーム医療の特性を習得することを目的とする。目標達成には、現代社会で求められる豊かな人間性に裏打ちされた広い視野と深い教養を持ち、行動力とコミュニケーション能力を備えた人材教育が必要である。これは本学全体のディプロマ・ポリシーである「幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる」、「主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる」に関連した教育改善に繋がる。さらに、他施設との教育連携を活用し、「学部の人材養成目的に沿った順次性のある体系的な教育プログラム」を構築することから、大学・学部を超えた連携教育の一つのモデルとなる。たとえば、「医療」をキーワードとしたテーマを設定することで、専門教育分野の学生と「医療における多職種の役割を理解する」、「各専門職の知識や情報共有の重要性を学ぶ」ことが可能となる。このように、学部の枠を超えた教育連携に発展し、テーマのキーワードを変えることで大学全体として恒常的かつ自律的に質の高い教育に繋がり、その波及効果も期待できる。



1. ユニット1:共通基盤の構築／早期体験学習 (1年生:282名)

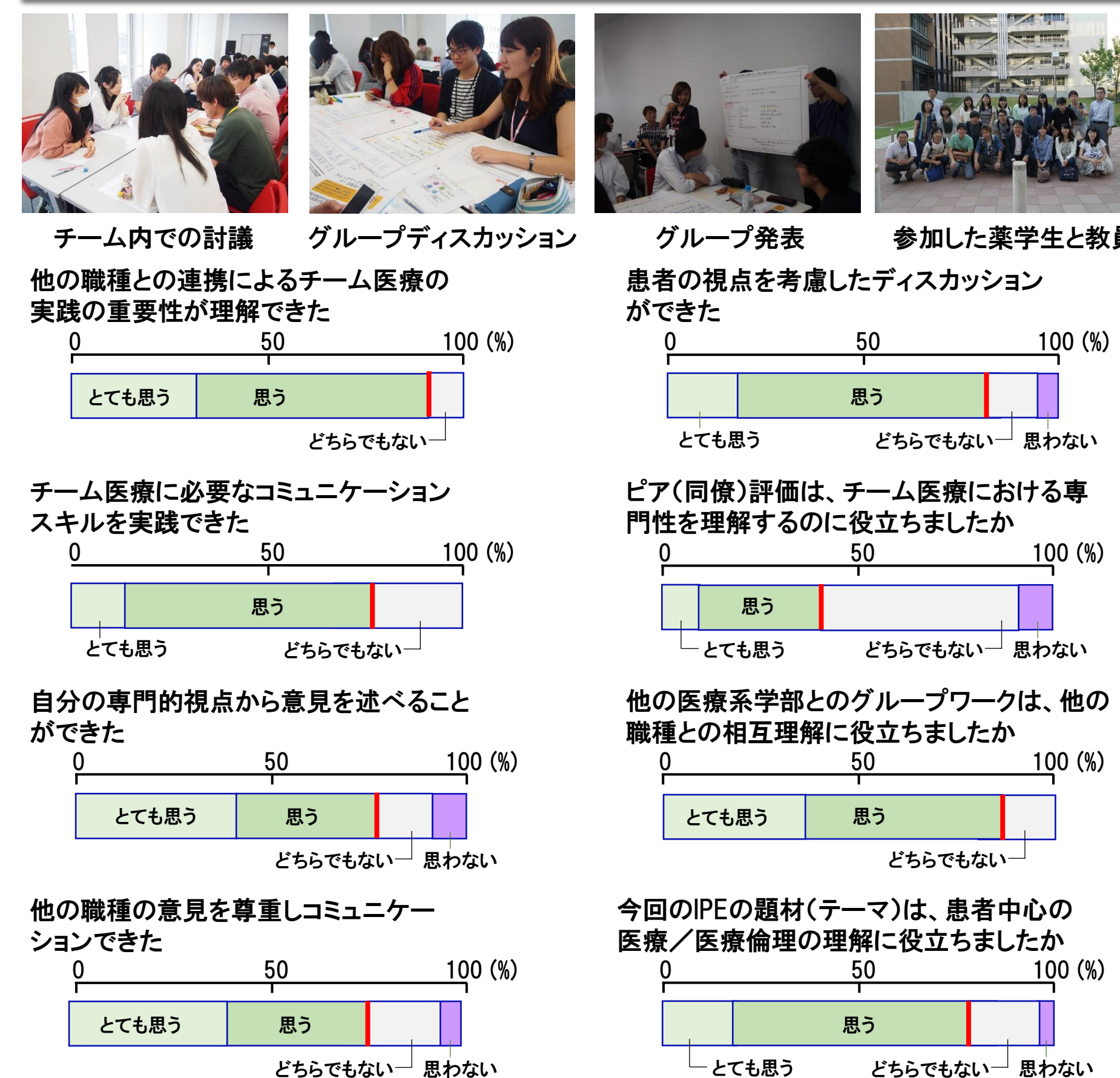


① **ユニット1**の早期体験学習(1年生282名)では、患者、他職種との連携の重要性、生命に関わる職種であることが理解できた。**ユニット2**のシネエデュケーション(映画の一部を医学教育に使用:鑑賞から感じたことを討論)とグループワークの実施(2年生7名)は、「他の職種との連携によるチーム医療の実践」「医師の専門性」「自分の専門的視点からの意見」などの重要性を理解することに繋がった。「病い」が人生に与える影響や医師の視点からの意見も理解できた。

② **ユニット3**に関するアンケート調査(1年生280名)では、「チーム医療の必要性」「協働する必要性」の価値観を体得し、「他の職種との連携によるチーム医療の実践」や「薬剤師の専門性」の重要性が理解できた。多職種名や役割の習得、患者中心の医療／医療倫理の理解に繋がり、継続して実施すべきプログラムであることが示唆された。

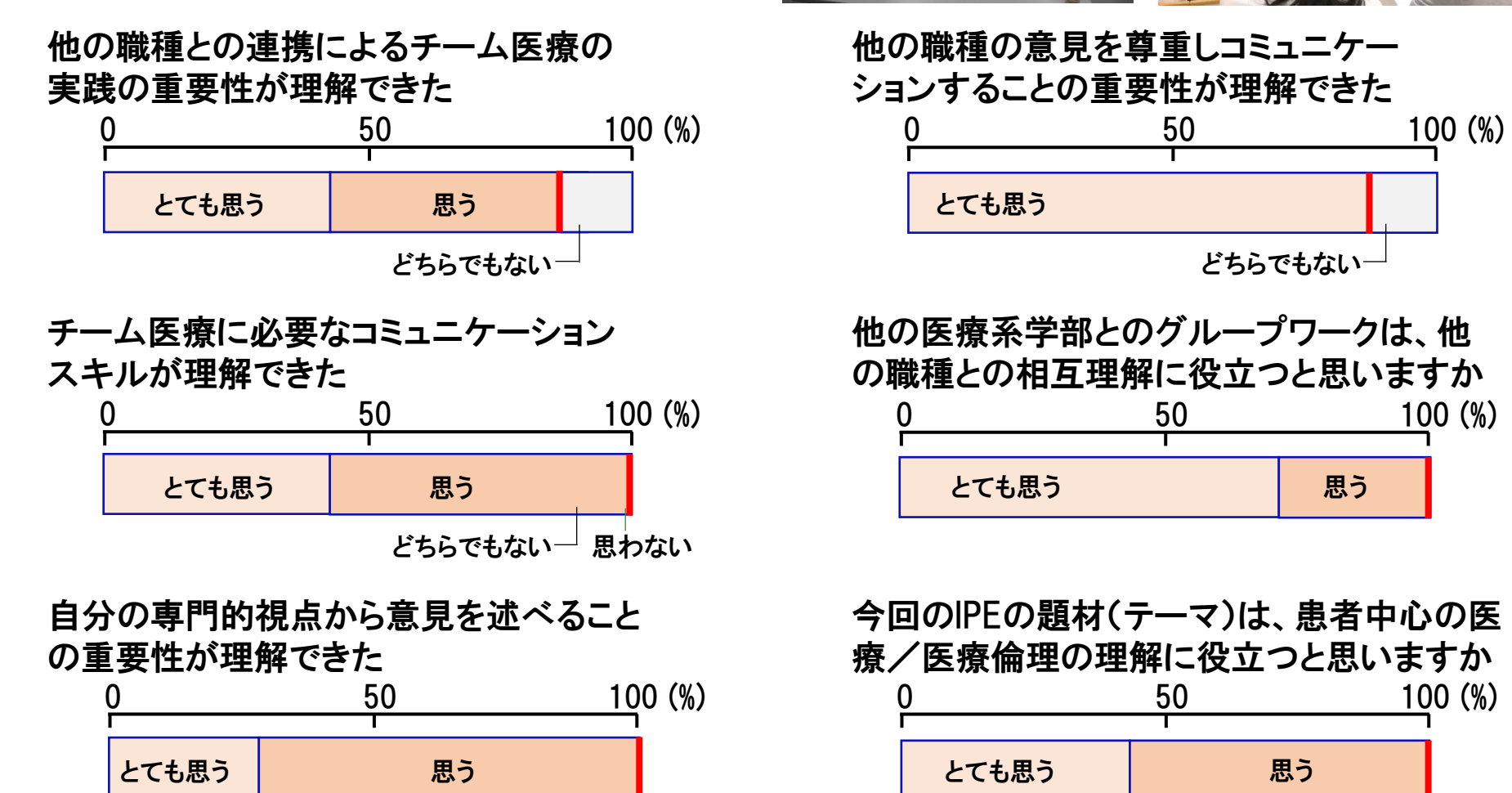
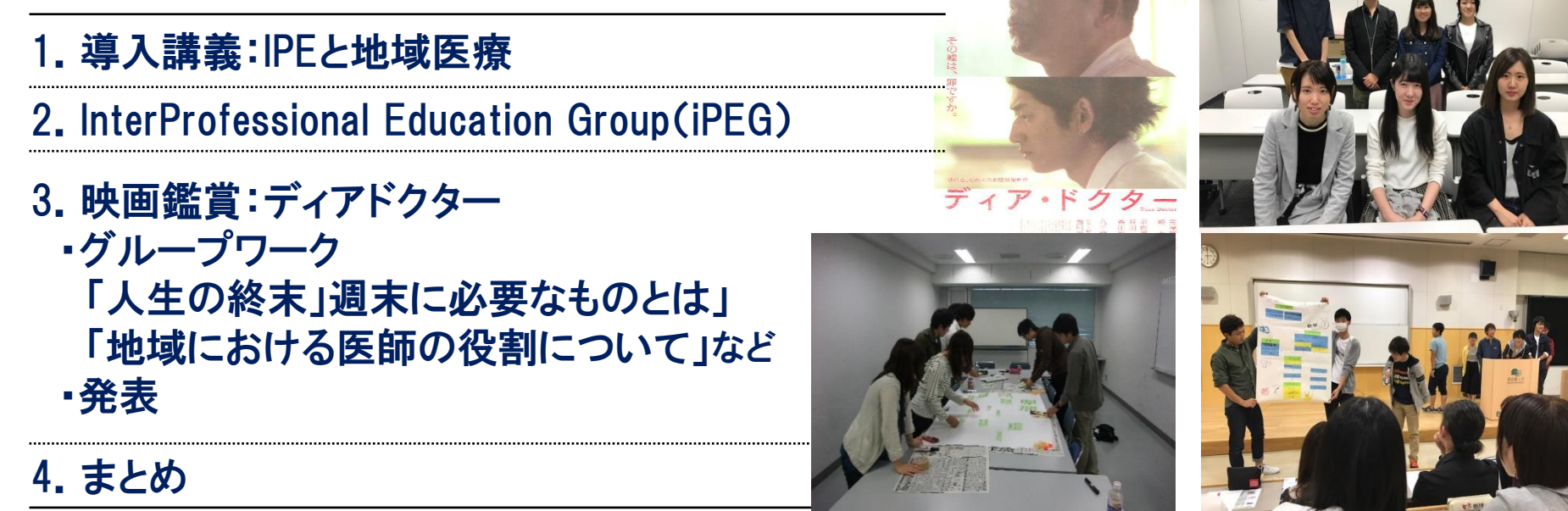
4. ユニット4:職種専門性の理解／多職種の専門性と地域医療の理解(2) (5年生/アセンブリ4:23名)

テーマ:認知症の方とご家族が住み慣れた地域で安心して暮らしているためには
1日目:応用課題1 認知症の方の模擬事例から課題を整理し、職種での役割分担して協働で考える
1～2日目:応用課題2 認知症の方やご家族が地域で暮らしていくための支援を考える
3日目:発表会

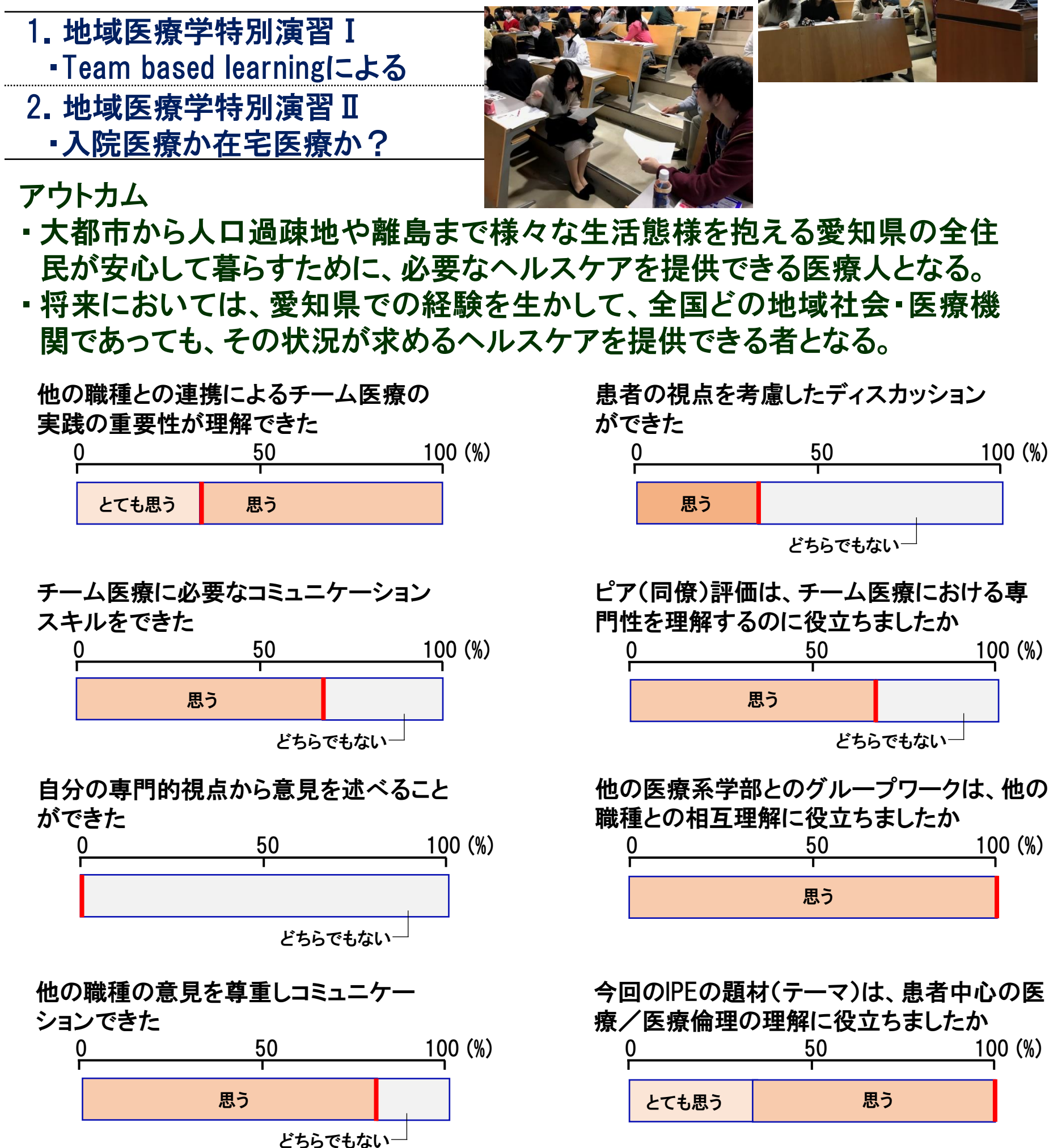


③ **ユニット4**に関するアンケート調査(5年生22名分)では、「他の職種との連携によるチーム医療の実践」「薬剤師の専門性」「患者の視点」の重要性の理解に繋がり、「将来の仕事」「他の職種との相互理解」に役立つことが明らかとなった。また、医学生とディベート(相手の話も十分聞いたうえで自分の意見を伝える)形式での討論を導入(4年生3名)したところ、「他の職種との連携によるチーム医療の実践の重要性」、「他の職種との相互理解」や「患者中心の医療／医療倫理の理解」に繋がり、アサーティブなコミュニケーション技術が習得できた。

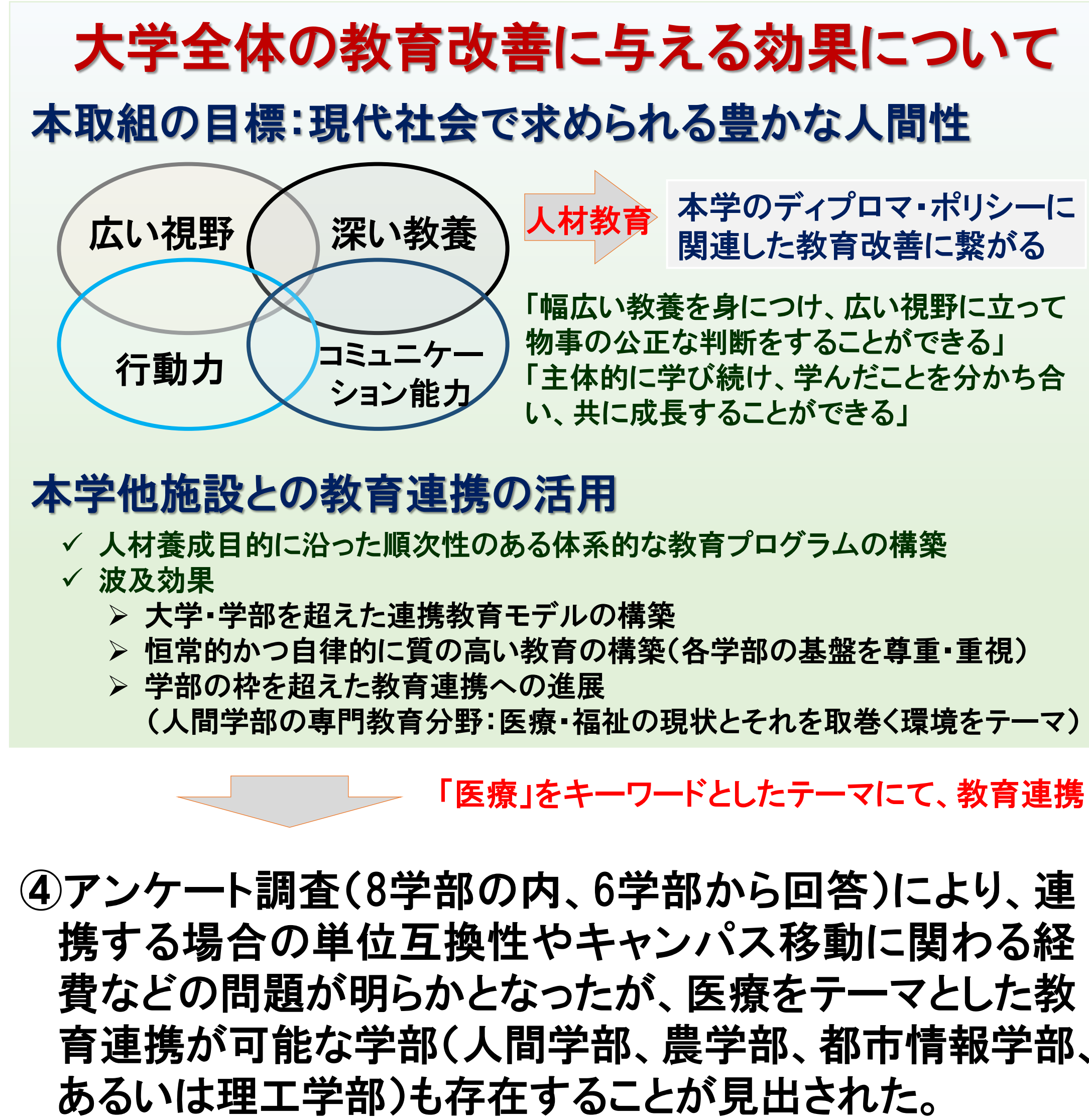
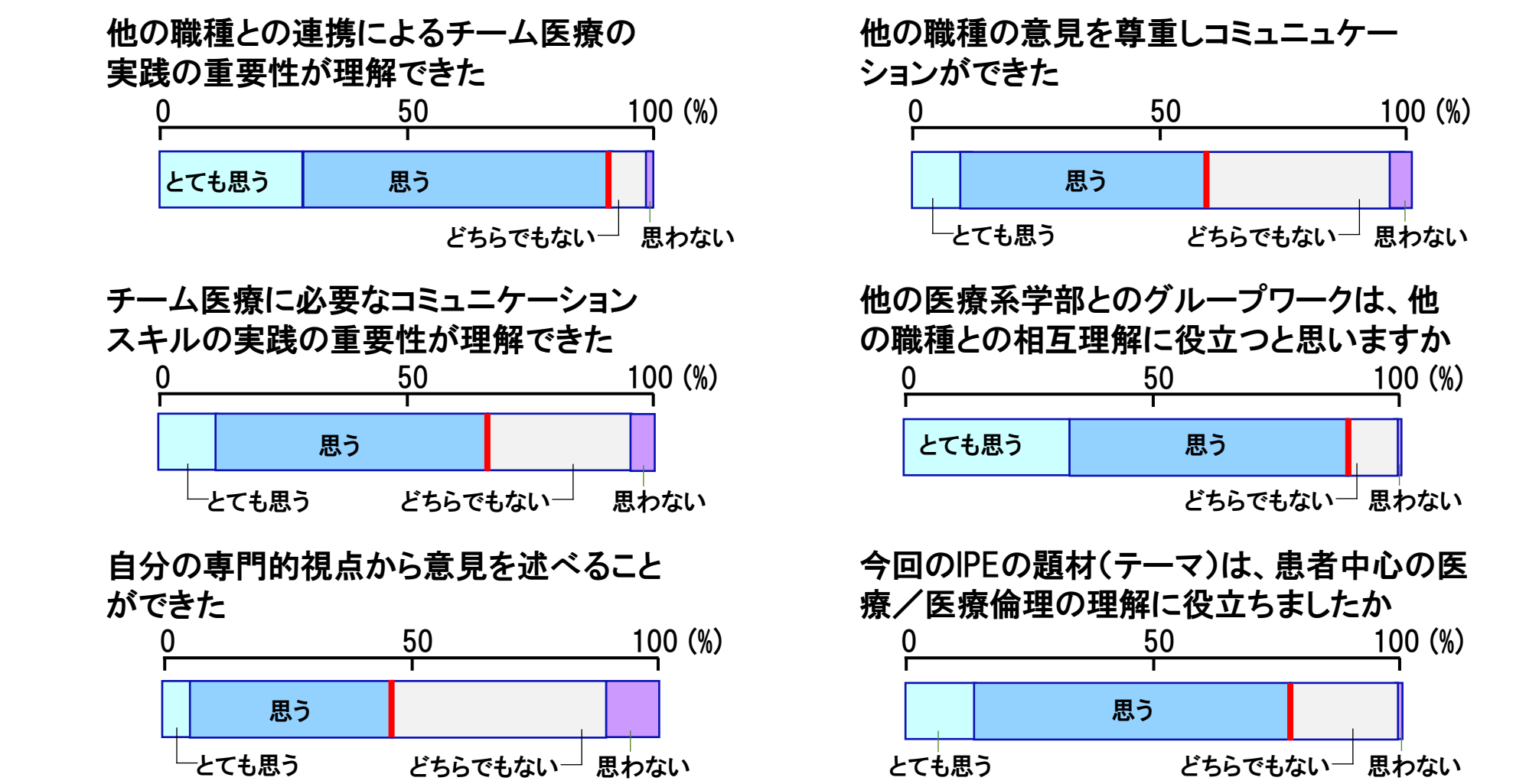
2. ユニット2:共通基盤の構築／チーム医療の基盤 (2年生/シネエデュケーション:7名)



5. ユニット4:職種専門性の理解／多職種の専門性と地域医療の理解(2) (4年生/3名) 地域医療:映像やディベートを用いた事例演習



3. ユニット3:職種専門性の理解／多職種の専門性と地域医療の理解(1) (1年生/iPEGとシナリオ劇場:280名)



本取組は、平成29年度 教育の質向上プロジェクトの支援のもと実施されました。本取組の実施にあたりご協力頂きました、名城大学薬学部 病態解析学Ⅰの学部4年生と5年生および病院薬学研究室の学部5年生、名古屋大学院医学系研究科地域医療教育学講座 岡崎研太郎先生、末松三奈先生と高橋徳幸先生、名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター看護キャリア支援室 阿部恵子先生に御礼申し上げます。また、本取組に関するアンケート集計・解析を手伝って下さいました病態解析学Ⅰの皆様にも感謝いたします。